

4. REND Aに関する作業について

中島龍三(法政大学)

核データ測定の要望リストについては、関連した話題が既にJNDCニュースに紹介されているが、今までは、Compilation of EANDC Requests for Neutron Data Measurements として毎年各国から提出される核データ測定に関する要求をまとめていた。EANDC では今年から、計算機を使ってこれをまとめることになり、REND A (RE quests for Neutron Data) と名付けて、その第1号が1968年1月(EANDC 61 "U"), それに対する supplement が2月(EANDC 62 "AL") の日の目をみた。EANDC 61 "U" の方は従来通り、各国から提出された要求をCINDAと同じようにelement 順に並べたリストであるが、EANDC 62 "AL" ではそれを、1) priority 1 の要求、2) $\sigma_{n, \gamma}$ 測定に対する要求、3) $\sigma_{n, f}$ 測定に対する要求、4) $\sigma_{n, p}$ 測定に対する要求、5) $\sigma_{n, \alpha}$ 測定に対する要求、6) 中性子散乱に対する要求、7) $\sigma_{n, f}$ に対する要求、8) 共鳴パラメータに対する要求、9) 熱中性子に関する要求、10) 高精度の要求に分けてretrieveしたリストである。

REND A 68年版を作成するにあたって各国に、その国での核データ測定に関する要求をまとめて9月末までにCCDNに送るよう、ENE Aから要求されていた。我が国でも原研の五十嵐信一氏が中心になって、かなり以前から関係のある研究機関に協力をお願いして、どういう核データを、何の目的のために、どのくらいの精度で測ってほしいか、ということについて要求をまとめていたのであるが、今回のぶんは一応今年7月までに寄せられたものを8月一杯かゝって整理し、9月半ばには日本のリクエスト・リストとしてCCDNに送ることができた。

2年まえにもこの作業をしたことがあるが、今回は前回と同様な炉物理的な立場からの要求の他に、測定のためのstandard cross section として使う立場、およびevaluation 作業を進めるうえで必要だという立場からも要求が出された。evaluation の作業が軌道に乗ってくれば、もっと沢山の要求が出てくるであろうと期待される。

なお、この作業は毎年引続いて行なわれるので、随時要求をお寄せ下さっても結構であるが、積極的に要求を出して御協力いただきたいと思っている。